

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

2013年 秋号 (通号57号)

NEWS from NANBATAJO

編集・発行/富士見市立難波田城資料館

平成25年9月1日発行

“縁結び” 難波田城公園・東京大神宮

市民学芸員 塩入 たま江

縁結びの神様「東京大神宮」にご縁ができましたのは3年前のことです。

難波田城公園の開園時から、四季折々の園内写真、市民学芸員の活動を撮影しブログに載せてくださっている温泉人さんおふろうどが橋渡しをしてくださいました。



フィルムケースのお雛様

私たち、市民学芸員の活動のひとつである「ちょこっと体験」の作品に「紙コップ」と「フィルムケースひな」のお雛様があります。温泉人さんによると、これらに関するブログの記事をご覧になった東京大神宮の宮司さんぐうじが実物を見たいとのことでした。

早速、雛祭り前に持参、宮司さんにお会いすることができ、奉納してまいりました。

その後、3月3日に参拝し、ご神酒しんしゅ拝載所はいざいじよに行くと、そこにフィルムケースのお雛様が飾られていました。うれしくなりました。



しあわせのハチス

それからこのご縁を大切に、昨年は難波田城公園で育った行田蓮かたくの花托の造形のおもしろさを利用して作った「しあわせのハチス」（私たちはそう名付けました）を持参しました。

東京のお伊勢さま「東京大神宮」は、東京における伊勢神宮の遥拝殿ようはいでんとして明治13年

(1880)に創建されました。日比谷の地に鎮座し、「日比谷大神宮」と称され、関東大震災後に飯田橋に移ってから「飯田橋大神宮」、戦後は「東京大神宮」と称されています。伊勢神宮の内宮の祭神である天照皇大神あまてらすすめおおかみ（国民すべての祖神）と、外宮の祭神である豊受大神とようけのおおかみ（農業、諸産業、衣食住の守護神）そして倭比売命やまとひめのみことを祀っています。さらに結びの働きを司る造化の三神ぞうかさんじんあめのみなかぬしのかみ（天之御中主神、高御産巢日神たかみむすびのかみ、神産巢日神かみむすびのかみ）が祀られていることから、縁結びにご利益のある神社として知られ、近年は良縁を願う若い人たち（特に女性）の参拝が多くみられるようです。

後日談があります。最初にお目にかかった宮司さんは、私の家と何百メートルも離れていない処にお住まいでした。これも何かの縁で結ばれていたのでしょうか。

6月12日、富士見市と姉妹都市のシャバツ市があるセルビア共和国の大使が、難波田城公園を訪問されま



セルビア大使にお土産を渡す

した。その折にも「しあわせのハチス」・「フィルムケース雛」をお土産にお渡ししました。

その後、7月13～15日の早朝開園の際には、蓮が多くかたくの来観者、撮影者を招きました。

これからも「しあわせのハチス」やそれを生みだす蓮、さらには、雛人形作りなどの四季折々の体験事業を通して、来園者の皆さんとも、良いご縁で結ばれればと思っています。

(参考HP：東京大神宮 ブログ：温泉人ライフ)

こんなお宝がありました 資料館編

馬耕機ばこうき
(犁すき・犁すき)

古民家ゾーンの旧鈴木家長屋門の農具展示コーナーに「馬耕機」(犁)が「馬や牛に引かせて田うないする犁です。乾田になってから普及しました。」という解説付きで展示されています。

一般に「スキ」という場合、人が踏み込んで使う「人力耕起具」を「鋤すき」といい、牛や馬に引かせる「畜力耕耘機」を「犁すき・犁すき・唐犁からすき」と区別しています。また、犁の起源は古く、平安時代の文献にも「犁」を「加良須支カラスキ」と訓じ、墾田に用いる道具である、と説明しています。

しかし、当館所蔵の馬耕機(犁)が南畑地区で実際に使われたのは、意外に新しく昭和二十年頃といわれています。昭和十年代に始まった耕地改良事業により、南畑地区の「ドロタ」或は「ミズタ」も乾田となりました。乾くと堅くなる粘質土の耕作には、畜力を利用した犁は欠かせぬものとなりました。その後、犁は昭和三十年代後半に導入が進んだ動力耕耘機にとって代わられました。(西尾 勉)



馬耕機 (当館蔵。長屋門で展示中)



馬耕機を用いた田うない (南畑地区 昭和30年頃)

おもしろ・なつかし体験④1

かかし
案山子づくり

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

古民家ゾーンの旧大澤家住宅の前庭で、7月27日(土) 田んぼ体験隊による「案山子づくり」が行われました。

当日は、12組の親子が参加しました。まず、資料館で事前に準備した材料「竹・わら・ペットボトル」を組み立てます。そして、各自が持参した古着などをかぶせていくようにして、案山子の形にしていきます。いずれの親子も、はじめは悪戦苦闘したものの、だんだんと、素敵なかかしに仕上がっていきました。できあがった案山子は、表情も衣裳もそれぞれで、不思議と愛嬌もあります。田んぼに運び、畔にある杭に縛り付けると、スズメやカラスも驚くような完成度の高い、案山子集団

となり、田園風景により手作り感を加えてくれました。案山子づくりを手伝いながら、幼い頃にうたった案山子の唱歌や案山子の顔に書いた「へのへのもへじ」を思い出しました。(村江 近人)



案山子づくりに挑戦中



難波田城 案山子集団!

人の創った道具★人の使った道具

あそびのうつりかわり

～穀蔵テーマ展示「むかしのあそび」(H25/8/10 から1年間)より～

“あそび”と“おもちゃ”の意味



江戸時代の泥メノコ
(市内多門氏館跡出土、生涯学習課蔵)
タテ2.5cm。明治時代に素材が鉛→木→紙と変化し、遊び方も変化。

「あそぶ」とは、日常生活から心身を解放し、別天地に身をゆだねることです。本来は神を楽しませるための音楽や舞踊などを指したと言われています。

「おもちゃ」は、「もてあそび(弄び、遊び)」「もちあそび」に「お」がついた「もちあそび」が変化したと言われています。本来は“手に持って遊ぶ小さなもの”という意味です。

子どもの遊びのうつりかわり

当館の「遊び」に関する資料(おもちゃ等)は、ほぼすべて市民から寄贈された物で、大半が昭和30年代(1955-64)以降の物です。本展では約70点を展示しています。

昭和30年代は、富士見市域が農村からベッドタウンへと変化を始める時期です。農地の宅地化、農家の兼業化、サラリーマン家庭の転入による人口急増などで、生活スタイルが大きく変化しました。

大正時代(1912-26)から昭和30年代までの子どもの遊びには、次のような特徴がありました。

- 自然を利用する
- おもちゃを自分で作った
- 近所の子どもと外で遊ぶ

昭和40年(1965)頃から自然を利用した遊びが減り、市販のおもちゃで遊ぶことが増えました。おもちゃの素材はブリキや木からプラスチック中心へと変わり、安全性や教育的観点への関心も高まり、様々なおもちゃが販売されるようになりました。

若者の遊び・大人の娯楽のうつりかわり

昭和30年(1955)頃までの若者の遊びは、青年

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

団で素人演芸を上演したり、地域の祭りに参加したりなど、地域に根差したものが主流でした。農業や商業といった家業で働く若者が多かったためです。

昭和32年(1957)に日本住宅公団鶴瀬団地が入居開始したのを口切りに、宅地化と人口の急増が始まると、鶴瀬駅周辺に様々な商店ができました。ボウリング場やパチンコ店がある娯楽街もできました。東京で働く若者や大人が増え、遊びや娯楽の場所も広がりました。映画やコンサートの鑑賞に出かける人も増えました。

マスメディアやゲーム機の影響

昭和26年(1951)から放送が開始されたテレビや34年(1959)に発売された週刊マンガ雑誌などのマスメディアが30年代に普及すると、子どもの遊びに反映されるようになりました。子どもだけではなく、若者や大人の娯楽もマスメディア中心になり、テレビやマンガは欠かせないものになります。

昭和58年(1983)には家庭用ゲーム機「ファミリーコンピュータ」が登場し、大人気となりました。子どもが外遊びをしなくなった原因とも批判されましたが、若者・大人にも支持されました。

ゲーム機の流行以降、「子どものおもちゃはモノと手が直接対話するような“手遊び”としての玩具よりも、両者の間に入り込んで機能する“操作性”の高い玩具が表立ってきている」という指摘もあります。(森下みさ子1996『おもちゃ革命』)

これからは、どのような遊びが現れるのでしょうか？



鶴瀬駅近くの娯楽街(広報課撮影)
昭和47年(1972)頃撮影。「マイボール」で遊ぶ大人もたくさんいた。



バレリーナ ユッコちゃん人形(当館蔵)
昭和50年(1975)にトミーから発売。身長28cm。



ナショナルブラウン管テレビ(当館蔵)

昭和42年(1967)に46,900円で発売。(調査協力/松下幸之助歴史館)

(駒木敦子)

秋のイベント予定

●企画展情報

平成 25 年秋季企画展「郷土かるたの富士見」

昭和 47 年(1972)に作られた「富士見文化財かるた」を中心に、市民が創作したカルタや市内の文化財を紹介します。

会 期／10月19日(土)～1月13日(祝)

会 場／特別展示室



穀蔵テーマ展示「昔のおもちや」

大正時代から昭和にかけての富士見市域の“遊びの移り変わり”を、収蔵資料(おもちゃ等)からふりかえります。

会 期／8月10日(土)から約1年間

会 場／穀蔵展示室



●はたおり教室

はたおりの工程(全5回)を学び、布を織ります。

と き／①9月19日(木)②同26日(木)③10月3日(木)午前④10月3日(木)午後～6日(日)、8日(火)～10日(木)のうちいずれか2時間⑤10月17日(木)

ところ／旧大澤家住宅

定 員／10人(申込み順) 参加費／1,100円

持ち物／筆記用具、昼食

指導／資料館友の会木綿部会 申込み／お電話か直接

●思い出の布で小物入れづくり

用意した布を使い、縫い方を教わります。

と き／10月2日(水) 午前10時～午後3時

ところ／難波田城資料館講座室

作 品／ファスナー付きポーチ

参加費／300円 定 員／15名(申込み順)

指 導／美楽の会 申込み／お電話か直接

●第 21 回ふるさと探訪

難波田城と並んで、江戸と川越をつなぐ城だった赤塚城(板橋区)とその周辺を巡ります。

と き／10月6日(日) 午前9時30分～午後3時

集合場所／東上線下赤塚駅北口

定 員／40人(申込み順) 参加費／500円

申込み／9月1日(日)～10月3日(木)にお電話で

主 催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●拓本体験教室

古代中国から伝わった複写技法の拓本を体験します。石碑の文字を和紙に写し、色紙の作品に仕上げます。

と き／10月20日(日)10時～15時

ところ／講座室 参加費／500円

定 員／8人(申込み順) 申込み／お電話か直接

●秋の古民家コンサート

古民家に響く、トイピアノの懐かしく可愛い音の世界をお楽しみください。

と き／10月27日(日)午後1時30分～2時15分

ところ／旧大澤家住宅

演奏者／畑奉枝(ともえ)(sound office おとたびしや 音旅舎)

演 目／「トイピアノのためのわらべ唄組曲」など

定 員／100名程度(無料、当日先着順)

●ふるさと体験 わらわり作り

と き／11月2日(土)午前9時30分～3時

ところ／旧金子家住宅 定員／大人15人(申込み順)

参加費／300円

申込み／10月1日(火)9時受付開始

指 導／いなほの会

※他にも、お月見だんごづくり(9月16日)、さつまいも掘り(10月27日)、手打ちそばづくり(11月30日)などのイベントがあります。

各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどをご覧ください。

●ちよっ蔵市

(難波田城公園活用推進協議会主催)

9月29日(日)おはぎ

10月27日(日)ふかしいも

11月24日(日)手打ちうどん

※時間は午前11時から。売り切れ次第終了

〈閉園時間について〉

10月から3月の間、公園の閉園時間は午後5時です。資料館と古民家の閉館も午後5時です。



難波田城
FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM

編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時